ふるさとは今

佐毘売山神社（さひめやまじんじゃ）【大森町】

佐毘売山神社は、鉱山の守り神である金山彦命（かなやまひこのみこと）が祀（まつ）られています。佐毘売山神社は別名で「山神社」といわれ、鉱夫や村人からはしたしみを込めて「山神(さんじん)さん」と呼ばれていました。

1434年、室町幕府の命によって周防国（山口県）守護大内氏が現在の島根県益田市から分霊を移し祀ったとも伝えられており、戦国時代には銀山を領有した大内氏、尼子氏、毛利氏などに崇敬されてきました。また江戸時代には幕府領（天領）であったことから幕府の初代石見銀山奉行として赴任した大久保石見守長安などに手厚く保護され、毎年正月10日には、銀山の繁栄を祈願しました。

正月の大盛祈願は早朝、神職が銀の積み出し港であった鞆ヶ浦に赴き、そこから「塩鯖、塩水（海水）、海藻」を持ち帰って神前に供え、海藻を介して酒を社殿の扉に注ぎかけるという独自の所作を行っていたといわれています。

拝殿は二層構造となっており外観は二階建てで、拝殿と社殿が一体的に続く権現造りの構造になっています。社殿は文政元年（1818年）の大火で消失しましたが、翌年には代官所の援助を得て本殿、幣殿、拝殿、神楽殿などが再建され、特に拝殿の重層屋根は天領特有なものとされています。

（参考：佐毘売山神社を守る会ホームページ）

佐毘売山神社への行き方	JR山陰本線大田市駅から大森・大家線バスで「大森」下車（乗車時間30分）。 自家用車の場合は石見銀山センターに駐車後、「大森代官所行き」または「大田バスセンター行き」のバスで「大森」下車（乗車時間５分）。

表紙 あの頃～「片腕の松」の風景（三瓶町）～

表紙の写真は片腕の松の写真です。当時を知る前坂定美さんにお話を聞きました。

片腕の松周辺は草ばかりの草原地帯で多くの農耕用の牛が放牧されていました。片腕の松の周辺にある大きな水たまりは当時、一年中あったため、そこを水飲み場として牛は集まっていました。放牧されていた牛は三瓶に住む住民の牛で、各家庭に何頭かの牛を飼っているのが当たり前だったそうです。各家庭に牛がいたため、自分の家の牛がどの牛なの判別がつくよう牛の毛を持ち主の名前にカットをしたりと工夫をしていたそうです。しかし、牛はどこが家なのか分かっていたようで、夕方になるといつのまにか家に帰って来ていることもあったそうです。

▲２世松の植樹祭の様子

三瓶山の西の原は、陸軍の演習場所として使われていました。演習の障害になるということで大きな枝を切り、「片腕の松」と名付けられたと言われています。

片腕の松は、枯れてしまい倒れる危険があるため平成18年に伐採されてしまいましたが現在は、２世松の苗が植えられています。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。
発行／大田市役所総務部まちづくり推進課　TEL：0854-83-8029　FAX：0854-82-5885
〒694-0064　島根県大田市大田町大田ロ1111番地　E-mail：o-matidukuri@iwamigin.jp　http://www.city.ohda.lg.jp/
“おおだ”の定住サイト「どがどが」　http://www.teiju-ohda.jp/　どがどが 検索